

# 肉用牛繁殖経営診断成績

平成11年度に経営診断を実施した肉用牛繁殖経営23事例を集計した。また、過去8年間の年度別成績を取りまとめたので以下紹介する。

## ・経営環境

### 1. 牛肉の需給動向

牛肉の需要量は年々増加の傾向を示し、平成10年度には150万tで平成9年度に比べ3万t増加しているが、平成6年度以降、150万tで増減を繰り返している状態である。一方、国内生産量は、昭和60年度以降は概ね横ばいで推移している（図1）。

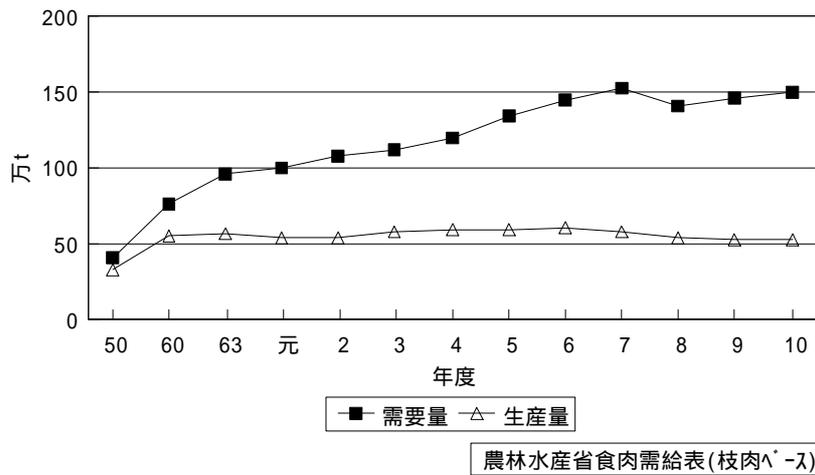


図1 年度別の需要量及び生産量の推移

食肉消費の内訳をみると平成元年以前は家計消費が5割以上を占めていた。しかし、平成2年以降は消費構造の変化に伴い家計消費及び加工仕向けの比率がより少なくなり、対照的に業務用（惣菜等の調理食品）・外食産業用が増加し続けている。平成10年以降、家計消費が食肉消費割合の4割を占めている（図2）。

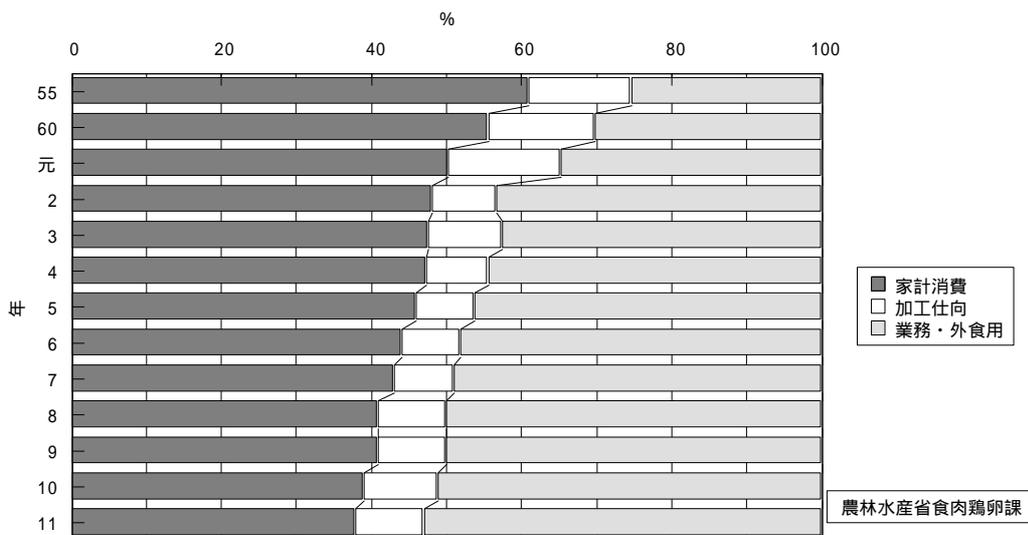


図2 食肉消費割合の推移

## 2. 牛肉輸入量（部分肉換算）の推移

平成3年4月の牛肉輸入自由化以降、牛肉輸入量（部分肉換算）は年々増加の傾向を示していたが、平成8年には狂牛病等で国産牛肉に対する消費者のニーズは高まり、輸入牛肉に対する不安からか輸入量は減少した。その後は、わずかずつではあるが輸入量は増加しており、平成11年には、約68.2万tが輸入された（図3）。

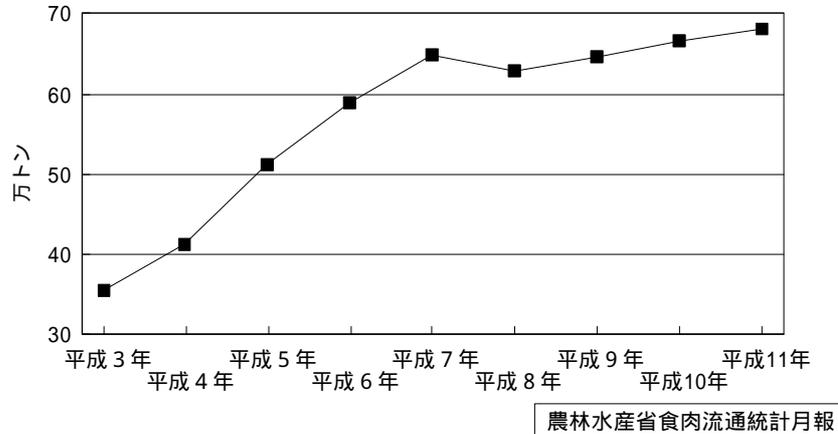


図3 牛肉輸入量の推移

## 3. 肉牛用配合飼料の農家購入価格の推移

平成元年度から平成11年度までの肉牛用配合飼料の農家購入価格の推移は図4のとおりである。平成2年をピークとして、円高の影響もあり平成7年度まで値下がり傾向を示していた。平成8年度の世界적인飼料用穀物需給のひっ迫と円安の進展により配合飼料及び輸入粗飼料の価格が大きく上昇したが、その後は下落傾向にあり、平成11年度は45,374円/トンであった。

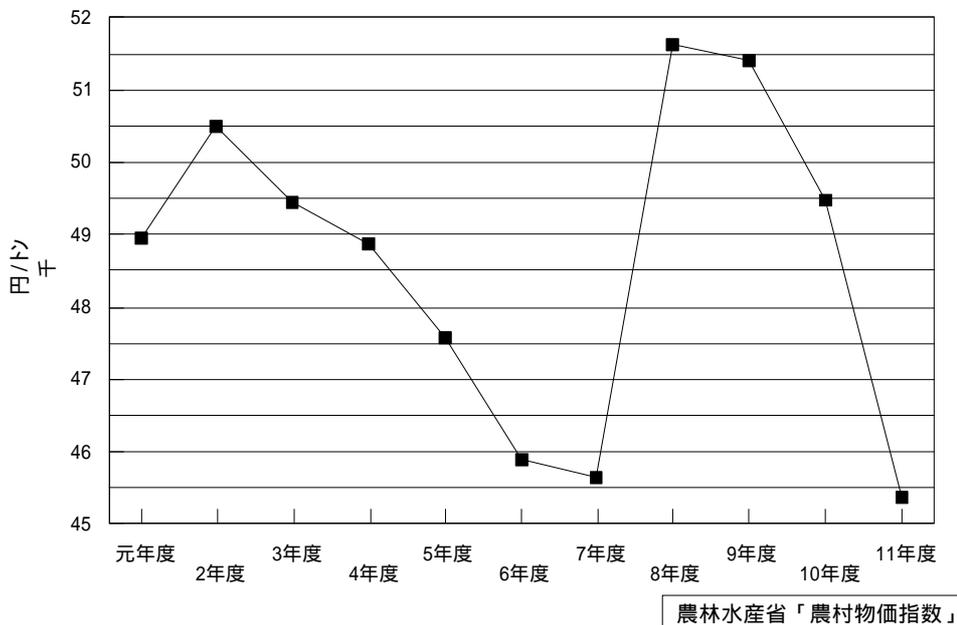


図4 肉牛用配合の飼料農家購入価格の推移

## 4. 岡山県における肉用牛飼養農家戸数及び飼養頭数の推移

岡山県の繁殖雌牛（生後6ヵ月以上の育成牛を含む）の飼養農家戸数（ただし、一貫経営を除く）及び飼養頭数の推移は図5のとおりで、平成11年には飼養戸数1,153戸、飼養頭数5,712頭となり、前年と比べて飼養戸数で113戸（9.6%）、飼養頭数で460頭（6.3%）の減少となっている。

また、平成3年と比較すると、平成11年では、飼養戸数で2,274戸（66.4%）、飼養頭数で3,373頭

(37.1%)減少している。これらの理由として、飼養者の高齢化及び後継者不足が考えられ、飼養戸数は大幅な減少を続けている。特に、頭数階層において、1～2頭規模の減少が、そのまま飼養戸数の減少に結びついていると考えられる。ただし、平成10年から平成11年に飼養頭数が増加しているのは、県内に約500頭規模の大型繁殖経営ができたためである。

平成11年の岡山県の肉用牛繁殖農家1戸当たりの平均飼養頭数は5.0頭であった(ただし、一貫経営を除く)。これは平成3年より2.3頭増加している。

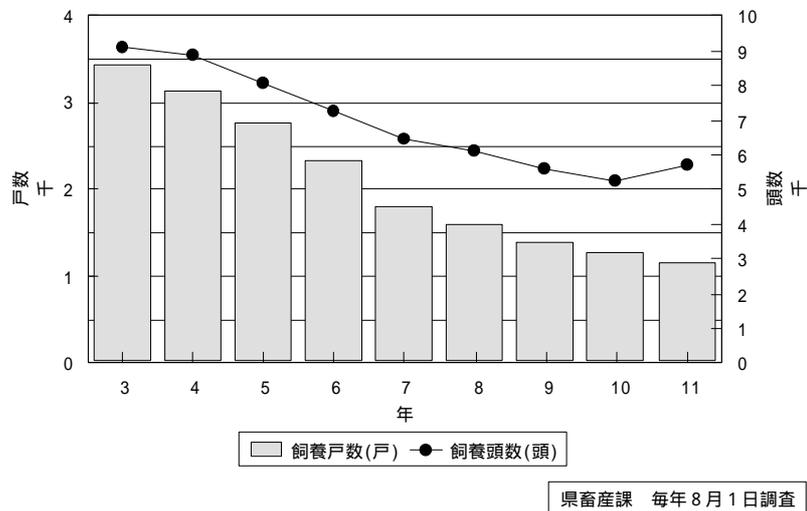


図5 岡山県の繁殖雌牛飼養農家戸数及び頭数の推移

岡山県の肥育牛飼養農家戸数は、平成11年には152戸となっており、平成10年の156戸に比べて4戸(2.6%)減少している。

一方、飼養頭数は平成3年の21,936頭から平成11年の24,918頭に増加している。しかし、平成6年以降は増減を繰り返している。

なお、1戸当たりの平均飼養頭数は、平成11年で163.9頭で前年に比べて3.2頭(2.0%)増加した。平成3年と比べると、76.9頭(88.0%)増加している(図6)。

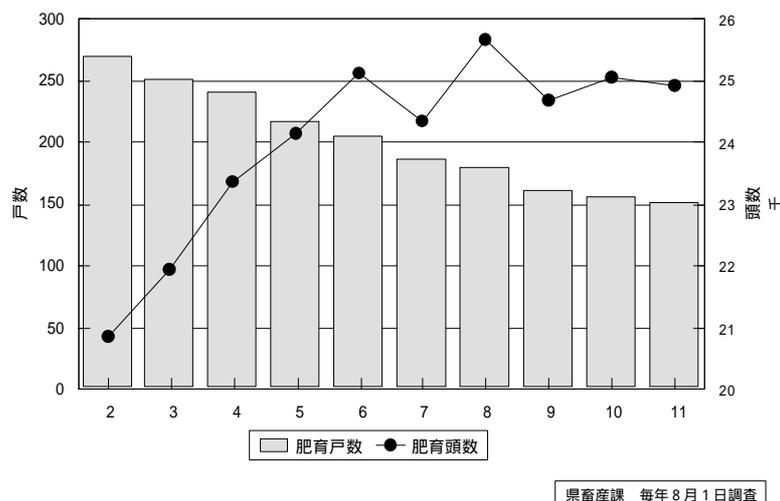


図6 岡山県の肥育牛飼養農家戸数と飼養頭数の推移

## 5. 全国と岡山県における和牛子牛販売価格の推移

全国と岡山県における和牛(黒毛和種)子牛平均販売価格の推移は図7のとおりである。全国平均も岡山県平均も同じ傾向であるが、岡山県平均は全国平均に比べて、全体的に低い傾向が見られる。

平成11年度において、全国平均価格は380,000円、岡山県平均価格は333,101円であった。

岡山県平均が全国平均に対して、下落傾向なのは、飼養頭数の減少により市場取引頭数が少なくなり、それとともに購買者も減少し、競りあわなくなってきたためと考えられる。

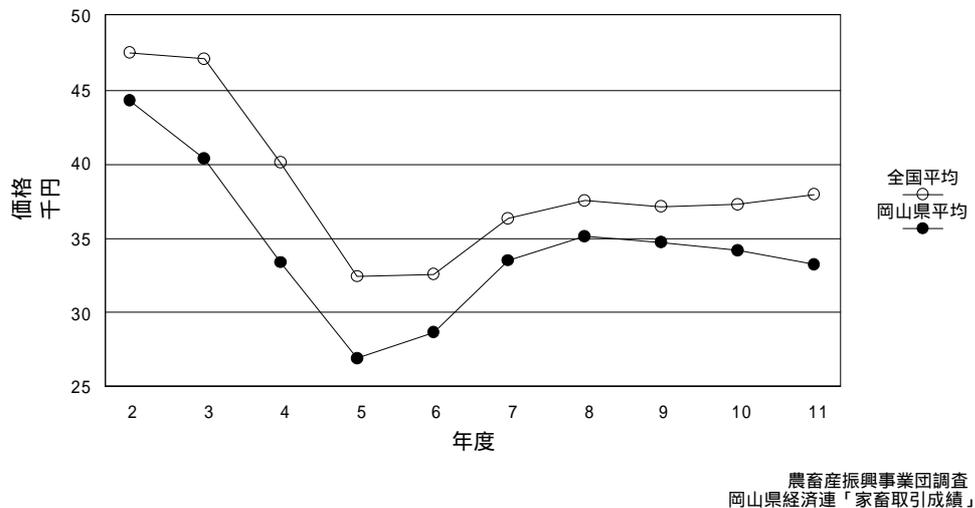


図7 全国および岡山県の和牛子牛平均販売価格の推移

#### 6. 岡山県の和牛子牛販売価格の推移

平成11年度における岡山県の和牛子牛販売価格は、去勢で366,917円、雌で288,921円、平均で333,101円であった。

昭和63年度の1頭当たり平均価格462,369円をピークに、その後年々下落し、特に平成3年度以降は牛肉の輸入自由化あるいは関税率の引き下げ、バブルの崩壊等の影響により大幅な低落をみた。その後、平成5年度以降回復の傾向を示していたが、平成8年度以降わずかながら減少傾向にある(図8)。

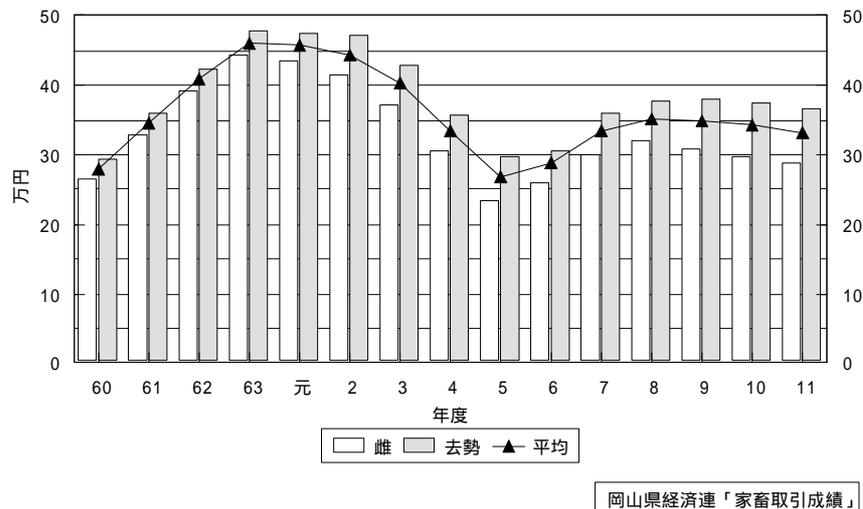


図8 和牛子牛販売価格の推移

#### 7. 東京市場と岡山県営食肉地方卸売市場における和牛去勢A4枝肉取引価格の推移

東京市場と岡山市場における和牛去勢A4取引価格の推移は図9のとおりである。東京市場・岡山市場いずれにおいても枝肉取引価格の推移は同様な傾向を示しており、平成11年度における和牛去勢A4取引価格は、東京市場で1,883円/kg、岡山市場で1,920円/kgであった。

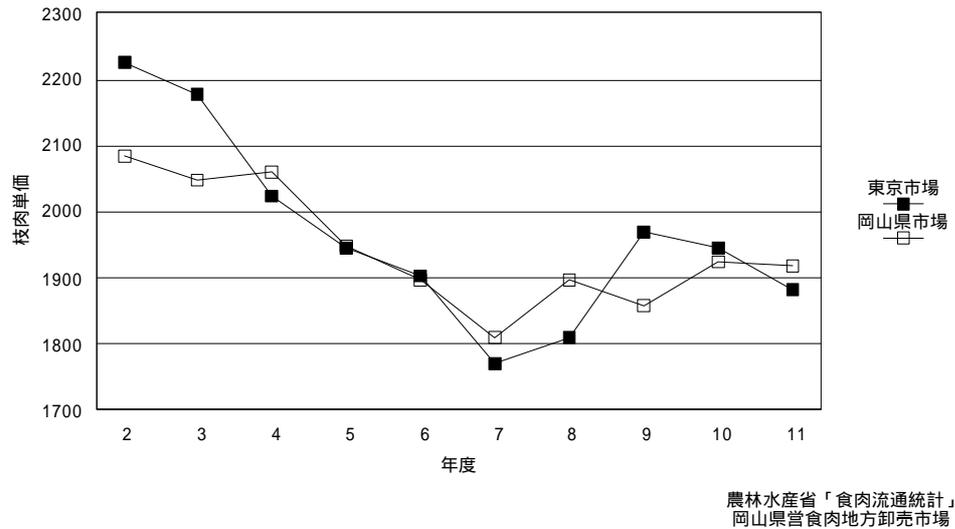


図9 東京市場と岡山県営食肉地方卸売市場における和牛去勢A4取引価格の推移

#### 8. 岡山県営食肉地方卸売市場の和牛枝肉価格の推移

平成11年度における岡山県営食肉地方卸売市場における、和牛去勢枝肉規格A4取引価格は1,920円/kg、B3取引価格は1,494円/kgであった。

牛枝肉取引規格が改正された昭和63年度以降の、県営食肉地方卸売市場の和牛去勢枝肉規格A4及びB3の取引価格の推移を見ると、平成元年度から4年度までは2,000円/kgを上回っていたが、平成5年度以降は牛肉輸入量の大幅な増加やバブルの崩壊等の影響により枝肉価格は下落し、1,800～1,900円/kg台を推移している。

特に、輸入牛肉と競合するB3規格は牛肉輸入量の大幅な増加の影響が大きく、平成元年以降、下がりがつづけていたが、平成9年度以降は上昇傾向となっている(図10)。

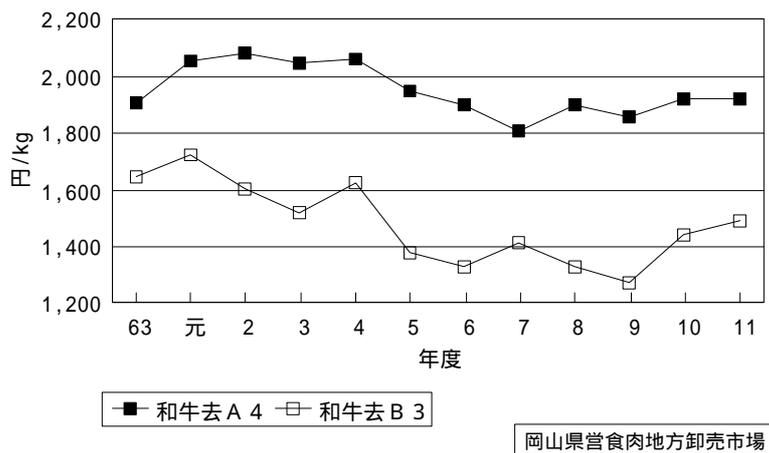


図10 岡山県枝肉価格の年度別推移